地域毎のイメージ

“街”の暮らしとコミュニティのイメージ

街の暮らしとコミュニティ

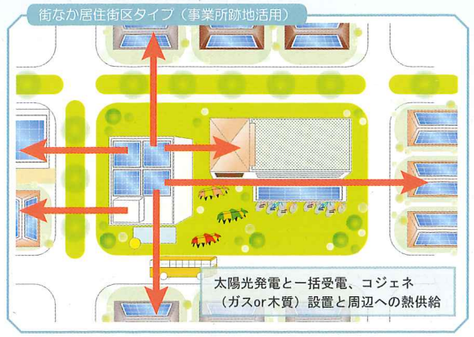
～ヒトやモノのつながりと多様性の創出による高付加価値コミュニティ～

”街”では、【おひさま】のエネルギーを中心に既存の電力や都市ガスといったエネルギーを組み合わせ、情報通信技術の活用によるエネルギーマネジメントによりエネルギーを地域で融通しあう低炭素なコミュニティが形成されています。

ここでは、太陽光パネルや太陽熱パネルによって作られたエネルギーを複数の建物で活用する仕組みが作り上げられています。この新しい仕組みは、公共施設が核となりながら、集合住宅や”地域福祉”のための拠点、商業施設などの整備に合わせて作っていくことによって多様性を生み出し、中心市街地全体の活性化、高付加価値化につなげています。

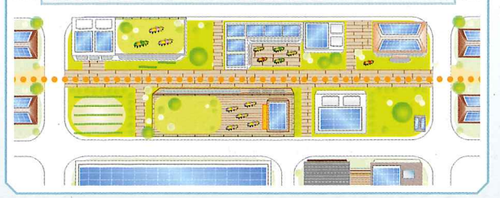
また、自転車の活用や徒歩での移動が容易になるような空間整備（トランジットモール）が行われ、人や電気バス（プッチー）による移動が中心となっており、化石人々のコミュニケーションも活発となっています。

街なか居住街区タイプ（事業所跡地活用）

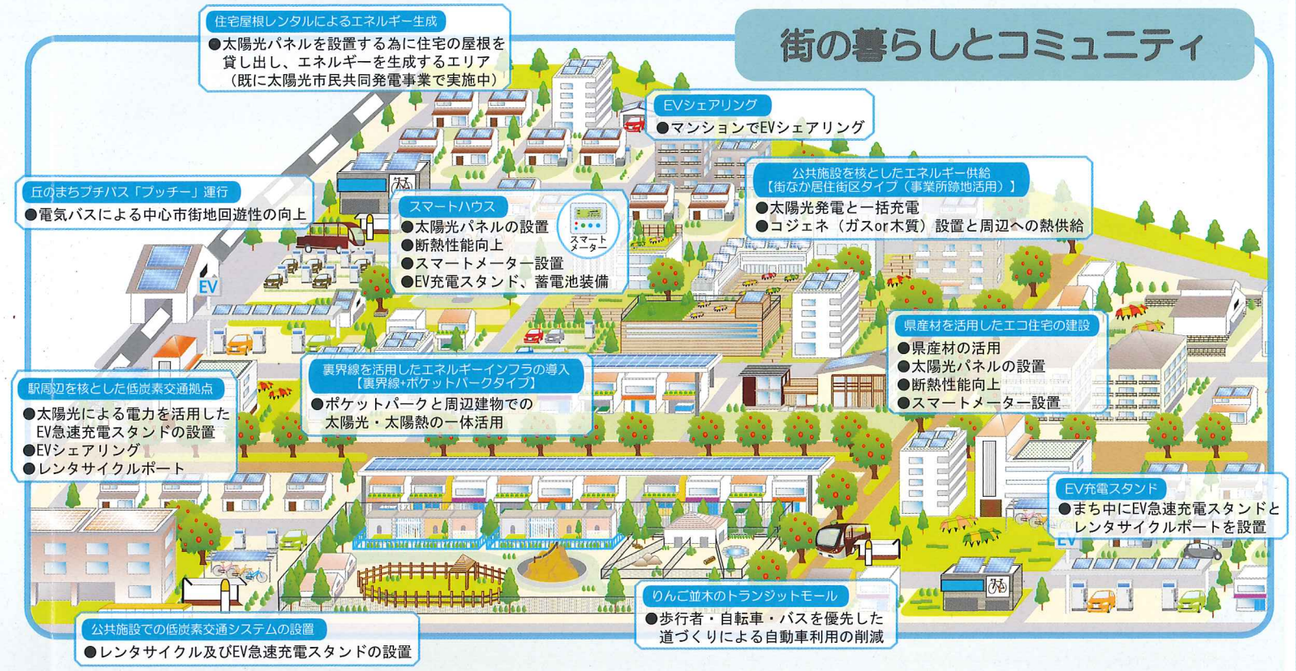


裏界線+ポケットパークタイプ

ポケットパークとその周辺建物での太陽光・太陽熱の一体活用、裏界線へのエネルギーインフラ導入



街の暮らしとコミュニティ



地域毎のイメージ

“山”の暮らしとコミュニティのイメージ

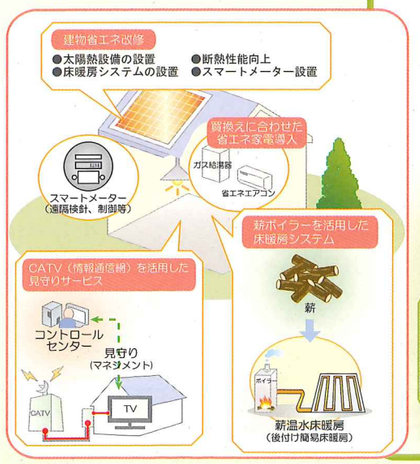
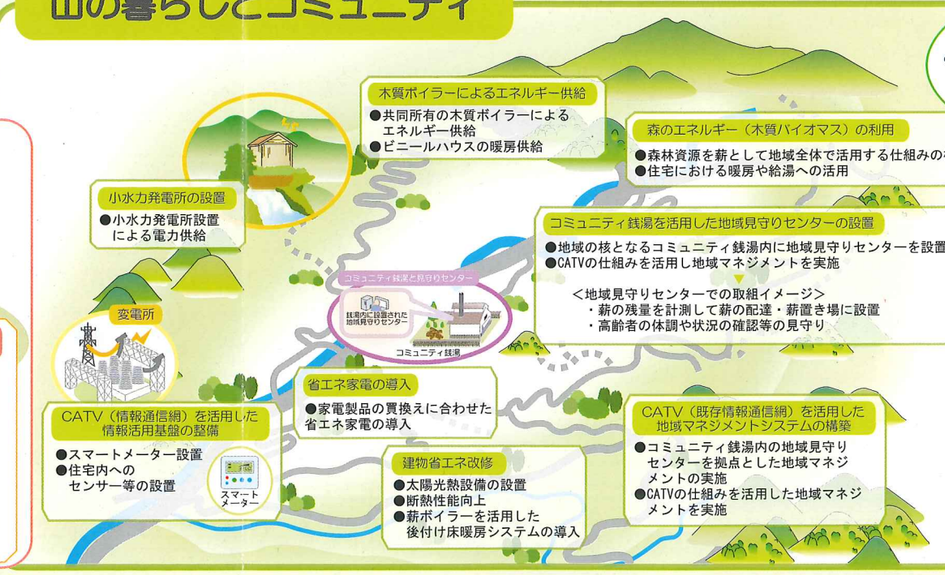
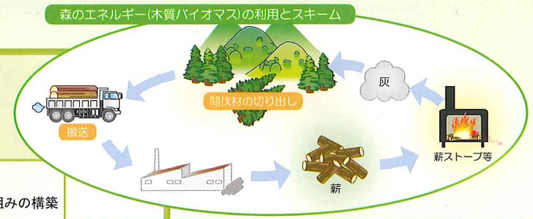
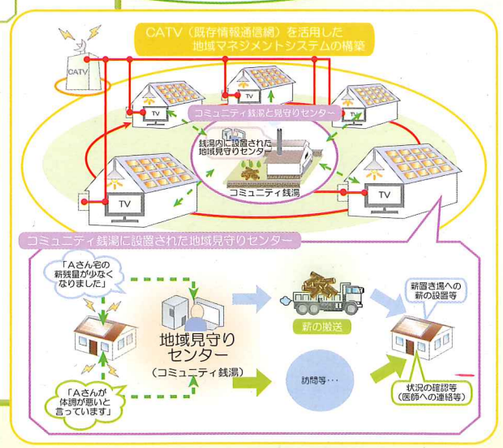
山の暮らしとコミュニティ

情報通信技術とヒトに支えられた安全安心コミュニティ～

“山”では、【みず】のエネルギーと【もり】のエネルギーを中心とした低炭素なコミュニティが形成されています。ここでは、急峻な河川を活用した小水力発電を地域で作り上げ、水の恵みを享受する事によって、地域で電気を生み出し、地域で活用する暮らしを実現しています。

更に、周辺にある森林資源を薪として地域全体で活用する仕組みを作り上げ、暖房や給湯として活用しています。これらの地域資源を活用する仕組みは、ケーブルテレビを活用した情報通信技術によって各家庭の状態を見守り、薪を配っていくヒトによって動いています。

これらによって、孤立する事無く、安心してエネルギーを使い続けられる”山”の暮らしを支えています。



山の暮らしとコミュニティ